

長野県支部だより 第16号

【事故から10年】軽井沢スキーバス事故慰靈 ～命の尊さを次世代へ～

2026年1月12日

15人が死亡、26人が重軽傷を負った2016年の悲痛な事故から10年という大きな節目を迎え、法政大学後援会長野県支部は今年も軽井沢にて慰靈行事を執り行いました。当日は厳しい寒さの中、本部役員、尾木直樹名誉教授、群馬県支部もが駆けつけ、共に祈りを捧げました。



ゼミの教え子4人を事故で亡くした尾木直樹先生は、毎年欠かさず献花に訪れています。先生は慰靈碑の前で「みなさんの犠牲の上に、この10年で安全対策が進んできました。これからも更に安全な社会となるよう取り組んでいきますから、どうぞ安心してください」と語りかけられました。私たち父母後援会もその思いを共有し、共に静かに手を合わせました。

長野県支部から19名、群馬支部から2名、本部より佐々木会長、山口総務、大学より尾木教授、島田課長が参加されました。マスコミの取材も多く、その日は各局のニュースに取り上げられました。



長野・群馬後援会
慰靈碑に献花▼



懇親昼食会

▲ 澄み渡る青空の下の記念撮影



慰靈の後は、軽井沢プリンスホテル内のレストランで懇親昼食会を開きました。美味しい食事をいただきながら子どもたちの学生生活や就活状況、大学/本部/支部活動について等々・・色々なことを語り合い、とても楽しく有意義な親睦会となりました。

